

A-1

状態性と事態解釈

アルタ語（フィリピン）に見られる非動作動詞

木本 幸憲

1 はじめに

フィリピンの言語では、少なくとも名詞と動詞は区別されるとされているが、語クラス間の「距離」は近い。

(1) *Tatin i {gilèngan / man-di:ma-dima=ta / ka:man}.*

who SG.ABS.DEF male INTR-RDP-walk=there big

「{その人/そこを歩いている人/大きい人}は誰ですか」(項)

(2) *{Gilèngan / man-di:ma-dima=ta / ka:man} i arta=y.*

male INTR-RDP-walk=there big SG.ABS.DEF person=SPC

「その人は{男性だ/そこを歩いている/大きい}」(述部)

(3) *{gilèngan / man-di:ma-dima=ta / ka:man} a arta*

male INTR-RDP-walk=there big LIG person

「{男性の/そこを歩いている/大きい}人」(連体修飾)

本論では以下のことを示す。

1. アルタ語では、動作動詞、可能動詞、状態動詞、形容詞、名詞の語クラスを分けることが可能。
2. 動作動詞 vs. 可能動詞の意味的差異が、状態動詞の二つの形式の意味的差異に対応する。
3. 未完了的状况を表す際、アルタ語で動作動詞の進行形が用いられる際は、その狀況が動的 (dynamic) であり、かつ人間・生物の行為である必要がある。その他の未完了的状况では、状態動詞の使用が好まれる。

1.1 アルタ語概要

■社会言語学的状況 アルタ語は、ルソン島北部のキリノ州 (Quirino) とオーロラ州 (Aurora) で話されている。10人の母語話者と数十名の第2言語話者によって用いられている。言語系統は、オーストロネシア語族 (マレー・ポリネシア語派、北部ルソン諸語) に位置づけられる。

アルタ語が最初に報告されたのは、Reid (1989) の論文であった。以下の議論は、発表者が2012年から行っているフィールドワークでのデータを元に行っている。

■音韻 アルタ語は /a, i, u, e, o, ə/ の6母音と、/p, b, t, d, k, g, m, n, ŋ, s, h, ʔ, l, r, j, w/ の16子音を持つ。母音には長短の区別が存在する (Kimoto 2017)。以下、/ə/ (mid-central vowel) はèで、/ŋ/ (velar nasal) はngで、/ʔ/は'で、長音は:で表記することとする。

■文法

- 節語順: (助動詞) – 述語 – 項 (A/S) – 項 (O)
- 名詞句内語順: 決定詞 – 名詞
- 節頭の述部要素に人称詞が付加
- 格標示はいわゆる能格・絶対格型に沿う

- (4) a. *B<in>isag=di* [*ni/didi* *babakat=i*] [*i/tidi* *bo:te*].
 <PST>break=COMP **SG/PL** old.woman=SPC **SG/PL** bottle
 「その老女(ら)がその瓶を割った」(他動詞)
- b. *T<in><um>adyor=di* [*i/tidi* *babakat=i*].
 <PST><INTR>stand=COMP **SG/PL** old.woman=SPC
 「その老女(ら)が立ち上がった」(自動詞)

2 述語のクラス

表1 述語のパラダイム

時制・相	基本形 (非過去)	過去形	進行形
動作動詞			
(自動詞)			
<um>	<um>	<inum>	} <i>paC-</i>
<i>maC-</i>	<i>maC-</i>	<i>minaC-, naC-</i>	
<i>maN-</i>	<i>maN-</i>	<i>minaN-, naN-</i>	
<i>maŋi-</i>	<i>maŋi-</i>	<i>minañi-, naŋi-</i>	
<i>maŋiC-</i>	<i>maŋiC-</i>	<i>minañiC-, naŋiC-</i>	
<i>me:-</i>	<i>me:-</i>	<i>mine:-, ne:-</i>	<i>paŋi-, pa:ŋi-</i>
(他動詞)			
<i>-ən</i>	<i>-ən</i>	<in>	<i>paC- -ən</i>
<i>-an</i>	<i>-an</i>	<in> <i>-an</i>	<i>paC- -an</i>
<i>i-</i>	<i>i-</i>	<i>ni-, ini-</i>	<i>paC-</i>
可能動詞			
(自動詞)			
<i>maka-</i>	<i>maka-</i>	<i>minaka-, naka-</i>	
(他動詞)			
<i>ma-</i>	<i>ma-</i>	<i>mina-, na-</i>	
<i>ma- -an</i>	<i>ma- -an</i>	<i>mina- -an, na- -an</i>	
<i>me:-</i>	<i>me:-, may-</i>	<i>mine:-, ne:-, minay-, nay-</i>	
状態動詞 (自動詞)			
<i>tiC-</i>	<i>tiC-</i>		
<i>maŋa:-</i>	<i>maŋa:-</i>		
<i>makan-</i>	<i>makan-</i>		
形容詞 (自動詞)			
<i>meC-</i>	<i>meC-</i>		

表2 各クラスの分類基準

	動作動詞	可能動詞	状態動詞	形容詞	名詞
進行相	✓	-	-	-	-
テンス対立	✓	✓	-	-	-
	非過去-過去	非過去-過去			
ヴォイス	✓	✓	(✓)	-	-
一時性の含意	✓	✓	✓	-	-
比較構文	-	-	-	✓	-
程度強調「とても」	-	-	-	✓	-

3 動作動詞と可能動詞

多くのフィリピンの言語では、述語形式は(名詞を除いて)、動作動詞と可能動詞に二分される(Reid and Liao 2002, Liao 2011, Blust 2013)。可能動詞は、動作動詞とは異なり、能力・可能性、非意図的行為、結果状態など極めて広い

意味を担う。この点でアルタ語は他のフィリピンの言語と変わらない。

3.1 動作動詞

下で見る可能動詞とは異なり、意志・責任性を含む動作の発生源が行為者・主体の内部に存在することを含意する。上述の (4a, 4b) を参照。

■自動詞 自動詞を形成する接辞は、*<um>*, *maC-* のほか、*maN-* (distributive), *mangi-* (cf. *i-*他動詞), *me:-* (comitative), *mangiC-* (reciprocal) がある ((4a) は *<um>* の過去形)。

■他動詞 他動詞を形成する接辞は、*-èn*, *-an*, *i-*がある ((4b) は *-èn* の過去形)。

3.2 可能動詞 (potentive verb)

従来、状態動詞 (stative verb)、潜在動詞 (aptative verb)、可能動詞 (potentive verb) などと呼ばれてきたものは、ここでは、可能動詞と呼ぶ (Rubino 2000: 1vx)。対応する自動詞のある *maka-* と、対応する他動詞のある *ma-* 系列がある。基本形では能力・潜在的可能性「～できる、しうる」、偶発的・非意図的行為「～してしまう、思わず～する」を表し、過去形では結果状態「～になった、～してしまった」を表し、当該個体の意志・意図に關与的ではない原因が關与することを表す。(以下以外にも *ma-* *-an* (cf. 動作他動詞 *-an*)、*may-/me:-* (cf. 動作他動詞 *i-*) がある)

(5) *maka-* (cf. 動作自動詞 *<um>*, *maC-*, *maN-*)

maka-dima 「歩ける」 vs. *man-dima* 「歩く」

maka-gurugud 「走れる」 vs. *mang-gurugud/g<um>urugud* 「走る」

maka-angay 「行ける」 vs. *m-angay* 「行く」

(6) *ma-* (cf. 動作他動詞 *-èn*)

ma-abbít 「(幼児) を布で抱っこできる」 vs. *abbi:t-èn* 「(幼児) を布で抱っこする」

me:ta 「(～が) 見える」 vs. *inta-n* 「(～を) 見る」

ma-pissay 「(～を) 破ることができる、破れそうだ」 vs. *pissay-èn* 「(～を) 破る」

cf. (対応する他動詞のないもの) *ma-to:lay* 「生きる」; *ma-paditèng* 「病気になる」; *ma-tannag* 「～を落とす」; *ma-silèm* 「(日が) 沈む」; *ma-talingu* 「怪我する」

4 状態動詞と形容詞

動詞に動作動詞と可能動詞の区別があることは、アルタ語も他のフィリピンの言語も変わりはない。アルタ語に特徴的な点は、(i) 状態動詞 (*tiC-*, *manga:-*) が生産的に用いられ、(ii) 属性的意味が、可能動詞とは異なる形式によって担われる (つまり形容詞カテゴリーが認められる) 点である。

4.1 状態動詞

状態動詞は、当該主体のある時点での位置、姿勢、着衣に関する状態、感情、生理的状态、生命・健康に関する状態等を表す。無生物では、プロセスの進行状態を表すこともある。いずれも、形容詞と異なり一時性の含意を持つ。

■*tiC-* (内因的状态) 接辞 *tiC-* は、自分の意志によって引き起こしたプロセスの結果としての状態を表す。動作自動詞との対応関係を持つ。

(7) 位置

ti''adu:yu 「遠くにいる」 (cf. *adu:yu* 「遠く」)

tiddiso:no: 「中に (入って) いる」 (cf. *diso:no*: 「中」)

tille:but 「周りに (集まって) いる」 (cf. *le:but* 「周囲」)

tiddingatu 「高いところにいる」 (cf. *dingatu* 「高い所」)

cf. <um>adu:yu 「遠くに行く」など<um>との対応あり。

(8) 姿勢

tittaddyor 「立っている」 (cf. taddyor 「起立」)

tittuttud 「座っている」 (cf. tuttud 「座ること」)

tiddagsu 「横になっている、寝そべっている」 (cf. dagsu 「寝そべること」)

ti"uyad 「足を伸ばしている」

cf. t<um>addyor 「立つ」; t<um>uttud 「座る」など<um>との対応あり。

(9) 着衣

tippulot 「禪を履いている」 (cf. pulot 「禪」)

tippantalon 「ズボンを履いている」 (cf. pantalon 「ズボン」)

tibbaruwa:si 「服を着ている」 (cf. baruwa:si 「服」)

cf. mampulot 「禪を履く」; mambaruwa:si 「服を着る」などと対応あり

■ **manga:-** 外因的状态 接辞 **manga:-**は、外部にその状態になる原因があったり、内部に原因があるもそれが制御できる性質でない場合の状態を表す。あるプロセスの結果状態を表す *tiC-*と異なり、あるプロセスの中間段階としての一時的状態を表すことも多い。

(10) 感情・生理的状态

manga:-pasiran 「恥ずかしい」

manga:-pagès 「興味を引かれている、面白く感じる」

manganting 「怖がっている」 manga:la:ngin 「人肌恋しい、寂しい」

manga:bisin 「空腹だ」

manga:dègnin 「寒さを感じている、寒い」

manga:burunburun 「悲しい、残念な思いでいる」

manga:rigèt 「ちくちくする、きしゃきしゃする」

(11) 生命・健康に関する状態

manga:-to:lay 「生きている」

manga:-paditèng 「病気をしている」 (cf. paditèng 「病気」)

manga:-lusayag 「眠れない、睡眠障害にある」

manga:-talingu 「ケガをしている」 (cf. talingu 「怪我」)

(12) 無生物における一時的状態・プロセスの進行状態

manga:-silèmsilèm 「日が暮れつつある」

manga:-sigi 「(炭などが赤くなり) 燃焼している」

manga:-as-a:suk 「煙が出ている」

manga:-rungtut 「腐りかかっている」

manga:-limès 「(水から半分顔を出して) 沈みかかっている状態だ」;

4.1.1 状態動詞と動作動詞の進行形との関係

状態動詞が発達していることで、アルタ語には動作動詞の進行形は、行為者が人間で、動的な状況の未完了的捉え方をする際に用いられる。

(13) 動作動詞の進行形

pab-bambal 「洗濯している」

pad-di:muy 「風呂に入っている (湯浴みしている)」

pag-gimitèn 「(衣服などを) 作っている」
pas-sibuwan 「(火力を強めるために) 吹いている」
pap-pa:lapalattugan 「銃を撃っている」

4.2 形容詞

アルタ語は、属性的概念は、可能動詞とは異なる形式でもって表される。基本形は、接辞なしで表されるものが6つ、*ma-*で始まるものが2例あるが、それ以外は *meC-* という形式で生産的に表される。形態論的・統語論的振る舞いの点でも、他の形式とは異なる。「とても」を表す重複形が存在する点 (*meb-bungku* 「美味しい」: *mebeb-bungko* 「非常に美味しい」)、比較構文に用いることができる点 (*mebbunko a:yi: amma ayta* (delicious this if that) 「これはそれより美味しい」) で異なる。

- (14) DIMENSION: *illa:yug* 「長い」; *apitti* 「短い」; *ka:man* 「大きい」; *killèk* 「小さい」, *mellawa* 「広い」, *meggipit* 「狭い」
 AGE: *siran* 「古い」 *bu:ru* 「新しい」
 VALUE: *malala:ki* 「よい、綺麗だ」 *marakèt* 「悪い」
 COLOR: *me"uding* 「黒い」, *meppullaw* 「白い」, *messulu* 「赤い」
 PHYSICAL PROPERTY: *me"apsut* 「苦い」, *meddettun* 「重い」, *mebbuyu:* 「臭い」, *messalub* 「かぐわしい」
 HUMAN PROPENSITY: *me"a:nus* 「親切だ」, *messubèg* 「怒りっぽい」
 SPEED: *mebbayag* 「遅い」, *mebbilèg* 「速い」
 DIFFICULTY: *meddigat* 「難しい」, *mellaka* 「易しい」
 POSITION: *me"adu:yu* 「遠い」, *mebbiyèn* 「近い」

状態動詞との関連で重要なことは、「うれしい」「恥ずかしい」「怖がっている」などの概念は、形容詞では表されず、状態動詞 *manga:-* で表されるため、それが性格を表さない限りは、形容詞でコード化はされにくい。

形容詞は、状態動詞に比べて、より属性的で、ある対象の特徴を描写するために用いられることは以下の対比でも確認される。

- (15) 状態動詞 (*manga:-*) と形容詞の意味的差異

manga:-dègnin 「寒さを感じている」 vs. *med-dègnin* 「冷たい」
manga:-bisin 「腹が減っている」 vs. *meb-bisin* 「飢餓である」

- (16) 状態動詞 (*tiC-*) と形容詞の意味的差異

tid-diso:no: 「中にいる」 vs. *med-diso:no:* 「深い」
ti'-'apaw 「表面にいる」 vs. *me'-'apaw* 「浅い」
tid-dingatu 「高いところにいる」 vs. *med-dingatu* 「高い」

5 議論

5.1 アルタ語内部の体系

1. 語クラス間の距離は近いものの、名詞以外に、動作動詞、可能動詞、状態動詞、形容詞が区別される。
2. アルタ語は、動作動詞と可能動詞のクラスが、プロセスの原因が内部的か外部的かによって大きく分けられ、状態動詞の二つの形式 (*tiC-* vs. *manga:-*) の差は、そのどちらの動作に対応する状態かによって区別される。
3. 未完了事象は、動作動詞の進行相も用いられるが、それは主に行為者(主体)が人間で、動的な状況の未完了状況に限られる。その他の未完了事象は、状態動詞によるコード化が観察される。
4. 形容詞は、属性、特性の付与に用いられており、当該主体の一時的な状態を表す際には用いられない。

5.2 フィリピン諸言語の中のアルタ語

以上の観察から、フィリピンの諸言語の中でアルタ語は、以下の特徴を持っているとまとめることができる。

■形容詞カテゴリーを立てる必要性 いわゆる形容詞カテゴリーについて、フィリピンの言語では、特に程度の強調の際の形態論的变化などにおいて、特異性を持つが、可能動詞との形式的同一性から、形容詞カテゴリーを立てることについては慎重な意見もある。“In most Philippine-type languages adjective-like words are classified as stative verbs, and are marked with a reflex of PAn *ma- ‘stative’”(Blust 2013: 494) 例：イロカノ語：na-, タガログ語 ma-, ビサヤ諸言語 ma-^{*1}

アルタ語は、meC-という形式で属性的意味が表される点で、他の動詞クラスと区別する必要がある。(cf. カシグラ・アグタ：me:ganda 「美しい」)

■状態動詞カテゴリーの卓立 アルタ語は二つの状態動詞が発達していることで、他のフィリピンの言語では、他のカテゴリーで表されるところで、そのカテゴリーが使われない、ということが起きる。

(17) a. 動作動詞（の未完了形）で表されるところで、状態動詞が用いられる例

Ilk. *agtugtugaw* vs. Arta: *tittuttud* 「座っている」

Ilk. *S<um>ipsepnet* vs. Arta: *manga:silèmsilèm* 「日が暮れつつある」

b. 可能動詞 ma-/na-が用いられるところで、状態動詞が用いられる例

Tag. *magutom* vs. Ilk. *mabisin* vs. Arta: *manga:bisin* 「お腹が空いた／ている」

Ilk. *mailiw* vs. Arta *manga:la:ngin* 「寂しい」

(形容詞的) Tag. *masaya*, Ilk. *naragsak*, Arta *manga:pagès* 「楽しい、うれしい」

参考文献

- Blust, Robert. 2013. *The Austronesian languages, Revised edition*. Asia-Pacific Linguistics Open Access Monographs
Canberra: Pacific Linguistics.
- Kimoto, Yukinori. 2017. Vowel length, mora, and diachrony: The case for Arta, a Philippine Negrito language. In Liao, Hsiu-chuan (ed.) *Issues in Austronesian historical linguistics. JSEALS 10.3, Special Publication No. 1*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Liao, Hsiu-chuan. 2011. Some morphosyntactic differences between Formosan and Philippine languages. *Language and Linguistics*. 12(4) pp. 845–876.
- Reid, Lawrence A. 1989. Arta, Another Philippine Negrito language. *Oceanic Linguistics*. 28(1) pp. 47–74.
- Reid, Lawrence A, and Hsiu-chuan Liao. 2002. A Brief Syntactic Typology of Philippine Languages. *Language and Linguistics*. 5(2) pp. 433–490.
- Rubino, Carl Ralph Galvez. 2000. *Ilocano dictionary and grammar*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Zorc, David R. 1977. *The Bisayan dialects of the Philippines: Subgrouping and reconstruction*. Department of Linguistics, Research School of Pacific Studies, The Australian National University.

^{*1} Zorc (1977) 参照。